

トップを目指す大学のサッカー部におけるリーダーシップの研究

宮崎 正明 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 新井 博

キーワード：リーダーシップ, マネジメント

1. 緒言

トップを目指す大学において、リーダーは重要な役割を果たしている。自らの競技よりもチームマネジメントを最優先に考えて行動しなければならない。つまり、クラブでは一クラブ員でありながら、ビジョンを示すリーダーでなければならないのである。

さて、自分は小学校時代からサッカーを行っており、中学、高校、大学とキャプテンを務めており、サッカー部のキャプテンとはどのような存在であるべきなのか、部員はキャプテンに何を求めているのか、長い間考え続けてきた。

そこで、自分以外の選手たちが考える理想のキャプテン、リーダー像とはどういったものなのか、どのような存在を求めているのかについて明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

大学サッカー部におけるキャプテン像についての調査の方法としては、経験と実績の伴うリーダーに対してインタビュー調査を行うという方法もあるが、実際の大学サッカー部員がどのような存在を求めているのか、また人数の多い B 大学サッカー部員の全ての意見や考えを調査し、研究に反映させるためにはアンケート調査が妥当であると考えられる。

アンケートを作成し、サッカー部の部員 280 名を対象に、大学サッカー部におけるキャプテン像についてアンケート調査を実施する。

そこから、大学サッカー部員が理想とするキャプテンに必要なと考えられる項目を抽出し、リーダーシップの重要性やチームマネジメントについて考える。

3. 結果と考察

本学のサッカー部員が理想とするキャプテン像は、技術面よりも精神面で優れた能力を有することを求めていることが明らかとなった。何があっても諦めない姿勢やキャプテンとして自覚のある行動・言動等を含めた人間性を求めていると考えられる。

チームのことを一番に考え、誰よりも強い気持ちを持ち、目標を達成するために行動するだけでなく、続けることから生じる責任感や信頼感も重要な要素であると考えられる。

4. まとめ

選手たちからのアンケートの回答でもあったようにキャプテンに求めることは多種多様で、人の変化のみならず環境の変化によっても、キャプテンの仕事や求められるものが変化する。様々な変化に柔軟に対応できるようにするためには、本調査で出た結果に近づくために努力し、変化を恐れずに学び続けなければいけない。

これからは一人の人間として、キャプテンをして感じたことや本調査で学んだことを自らの人生に活かしていきたい。

引用・参考文献

- 1) アレックス・ファーガソン マイケル・モーリッツ(2016) 人を動かす. 株式会社日本文芸社
- 2) チェ・ヨンギョン(2002) ヒディングのリーダー力. PHP 研究所
- 3) 松下幸之助(2012) リーダーの言葉. 株式会社 PHP 研究所
- 4) 児玉光雄 (2000) 名将が教える勝つ組織のリーダー学. 株式会社プレジデント社